

小学校低学年における外国語活動の取組の在り方  
～「聞きたい」「話したい」「知りたい」意欲を引き出すコミュニケーション活動を目指して～

十島村立悪石島小学校 森木 かずえ

目 次

1	研究主題	2
2	研究主題設定の理由	2
	(1) 今日的な課題から	
	(2) 校内研究の取組から	
	(3) 児童の実態から	
3	研究の構想	4
	(1) 研究の仮説	
	(2) 研究の視点	
	(3) 研究の構想図	
4	研究の実際	5
	(1) 意欲喚起のための環境の工夫	
	(2) 効果的な場の設定の工夫	
	(3) 教師による働きかけの工夫	
5	研究のまとめ	11
	(1) 研究の成果	
	(2) 今後の課題	

## 1 研究主題

### 小学校低学年における外国語活動の取組の在り方

～「聞きたい」「話したい」「知りたい」意欲を引き出すコミュニケーション活動を目指して～

## 2 研究主題設定の理由

### (1) 今日の課題から

いよいよ小学校 5, 6 年生での外国語の教科化, 3, 4 年生での外国語活動開始に向けて来年度から移行期間に入る。既に 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え, その完全実施に向け, 1, 2 年生から英語に慣れ親しむ時間を設けている学校も全国的には少なくない。平成 27 年度英語教育強化地域拠点事業における小学校の取組状況についての回答には, 次のような記述がある。それらは, 「1 年生からの英語の導入により, 中・高学年における英語の習得が無理のない形で行われるようになった」ことや学級担任が授業を行うことのメリットとして, 「児童の実態を把握して児童の反応や意欲をみとり, 指導に生かすことができる」こと, 「朝の会や帰りの会など, 日常生活の様々な場面でも英語を使う児童が増えてきた」ことなど, 小学校低学年の段階で, 少しでも英語にふれる機会をもつことの有用性が示されている。

今夏, 参加した英検協会主催の研修で, 上智大学言語教育研究センター長の吉田研作氏, 明海大学副学長で英文学教授の高野敬三氏と話をする機会があった。両氏とも「知識を知識だけに終わらせず, コミュニケーションに生かす」こと, 「小学校の先生方が子ども同様, 英語を楽しもうという姿勢で授業に臨む」ことの大切さを強調されていた。また, 外国語活動が英語に対する子どもや保護者のもつ「英語は難しい」というイメージを払拭しており, それが中学校英語へのよい刺激として, 英語を楽しむ環境作りに貢献していることにもふれられた。さらに, 極小規模校である本校の実情や小学校 1, 2 年生での取組について話題にしたところ, 英語や異文化に「慣れ親しむ」ことをねらいとして, 英語に「ふれる」機会をより多くもつことは今後プラスにならないわけがないとのことであった。この低学年の時期は, 文法やスペル, 文型習得以前に, 日本語と異なる音声に接し, 抵抗を感じず自然と受け入れるように見受けられる。興味・関心をもって楽しく英語に親しみ, かつ, 外国文化のよさや日本文化との違いに素直に驚いたり, 感動したりする発達段階の今だからこそ, 子供の意欲を引き出しやすいのではないかと考えている。

現代社会において, 対話活動を通して相手を理解することが人間関係構築には欠かせない。他者理解力が身に付いていないことで人間関係の構築がうまくできなかつたり, 環境の変化や相手を意識して思いをうまく伝えられなかつたりといった状況もあり得る。「国際化」「グローバル化」と言われ始めて久しいが, 今の小学生が大人になる頃には, 英語というツールを介しての他者理解がより多く求められるのではないだろうか。

前述した, 「知識を知識として終わらせない」とは, 知識を組み合わせることで応用力に加え, 答えにたどり着くまでの考え方の道筋を分かりやすく説明する力, 他の考えを聞いて, 自分の考えと比較しながら新たに自分の考えを練り上げる力が問われるという意味ではないだろうか。この力を身に付けることは, 容易ではない。ただ, こうした長期的な目標を視野に入れ, 日本語に限らず, 外国語で自分の考えを表現したり, 伝え合ったりする力を身に付けることは大人になってから大いに役に立つに違いない。その素地を養うためにも, 小学校低学年における「聞きたい」「話したい」「知りたい」という意欲を生かしたコミュニケーション活動の実践を行いたいと考えた。

## (2) 校内研究の取組から

今年度の校内研究テーマは「問題意識をもち、主体的に思考・判断・表現できる児童・生徒の育成～極少数人数における ICT を活用した指導法の工夫を通して～」である。各学年の発達段階に応じた子どもの望ましい姿を想定し、小・中両校種での授業実践や授業研究を通して効果的だと思われる手立てを指導に生かす研修である。ここで目指す「ICT 活用」とは、十島村内の他校とテレビ会議システムを活用した合同授業や交流活動を実施したり、理解を深めるために、視覚的な手立てとして ICT 機器を活用したりするということである。より分かりやすく、より効果的に学習を進めることで、子供が学ぶ喜びや他と関わる楽しさを実感できる授業に繋がると考えている。

本学級の 3 人の児童を昨年度から担任していることもあり、学習意欲が著しく高まってきていることを傍で見ていて実感できる。また、自分の考えを述べることに加え、他の考えと自分の考えを比べながら聞く力も徐々についてきている。他校とのテレビ会議システムを活用した合同授業では本校の研究テーマにある「主体的に思考・判断・表現できる」ことを意識して活動を展開することができた。

例えば、国語「あったらいいな、こんなもの」の学習では、自分の考えた道具についての説明に加え、相手からの質問を受けて答えたり、友達のよさを見つけて伝えたりする活動も意欲的に行った。自分が「知りたい」ということを自分の言葉で尋ね、相手の回答をうなずきながら聞くなど、主体的な学びの姿が見られた。また、小学校他学年や中学校の各教科においても、在籍が学年 1 人という極小規模校の課題を見据え、テレビ会議システムを活用して、多様な意見の交流や考えの練り上げを意識した授業を実施してきた。とりわけ中学校英語科では、村役場に招いた ALT と村内の全中学校の生徒による交流授業も行われ、コミュニケーション力を伸ばす手立てとして効果的だと考えられる。本学年でも、他校の児童とのコミュニケーション活動という視点から、「話す側」として自分の考えを聞いてほしい（＝話したい）という思いと、「聞く側」として相手の考えを知りたい（＝聞きたい）という思いが芽生える場をテレビ会議システムで設けることができた。この取組は、他校の子供との関わりを通して、幅広い考えにふれるよい機会であり、国語に限らず外国語活動においても同様である。こうした子供の意欲の高まりとコミュニケーション力の高まりの関係を探るということに焦点を絞り、本研究テーマに迫りたいと考える。



【資料 1：(上から)  
小2国語・小5算数・中1英語】

## (3) 児童の実態から

第 1 学年時は、自分のことが優先で、「聞く」より「話す」ことに一生懸命だったため、コミュニケーション活動とはいえ、うまく成立しない場面も多く見られた。しかし、今年度は、①人の話を最後まで聞くことを意識し始めていること、②自分が「話す」前には相手の話を「聞く」ことが必要だと理解しつつあることが普段の学校生活からうかがえる。また、「片仮名」を学習した際の「英語みたいだ。」という素朴なつぶやきや、兄弟姉妹の影響で「〇〇って英語でどう言いますか。」といった問いからは英語に対する興味・関心の高まりがうかがえる。このように、新しい知識を得ることに面白さを感じる今の姿から、外国語活動においても、より多くのことを吸収できる時期だと考えた。さらに、外国語に限らず、全ての授業や活動において、新しい知識を身に付けよう、学んだことを生かそうとする児童の実態も見受けられる。ここに示した意識調査からは、ALT との交流、体を動かしてのゲームやアクティビティ、異文化を知る授業について楽しいと感じていること、日頃、朝の会や帰

りの会で使う言葉や英語活動で取り組んだ言葉などが身に付いていることもうかがえる。子供が英語での簡単なやり取りや絵本の読み聞かせに対し、目を輝かせている姿を見れば、来年度は更に意欲的に学ぶ姿が期待できる。

そこで、外国語にふれる活動の場の設定を工夫できないかと考えた。日本語での伝え合う力、学び合う力、説明する力のもとになる、「聞く力」「話す力」は、外国語でも同様のはずである。「知りたい」という思いと併せて「聞きたい」「話したい」というこの発達段階での意欲を生かした実践ができないかと考え、本研究主題を設定した。

実施日：平成 29 年 7 月 19 日 対象 3 名

- 1 英語の授業や活動は好きですか。それは、なぜですか。  
はい (3) いいえ (0)  
  - ・ 英語を喋れるとカッコいいし、大きくなったら役に立つから。
  - ・ 英語ができるようになると、楽しいから。
  - ・ 英語が喋れるようになったら、外国の方に会って、いっしょに話ができるから。
- 2 英語の授業や活動は、楽しいですか。また、今までの活動でどんなことが楽しかったですか。  
はい (3) いいえ (0)  
  - ・ ばくだんゲーム ・ じゃんけんゲーム
  - ・ アレックス先生がいろんなことを教えてくれるところ。
  - ・ オーストラリアの食べ物を食べたこと。
  - ・ 英語活動を通して、パフェをみんなで作ったこと。
- 3 もっと英語を話せるようになりたいですか。また、それはなぜですか。  
はい (3) いいえ (0)  
  - ・ 外国の人が来たとき、安心して、自信をもって話せるから。
  - ・ 外国の人が、日本語を話せなくても、英語で会話できるから。
  - ・ 外国について、楽しく話を聞いたり、しゃべったりできるから。
- 4 話せるようになった英語がありますか。その英語を知っているだけ教えてください。 ※ 口頭で回答。  
  - ・ 数字 (1~10) ・ 自己紹介 (My name is~/I'm~)
  - ・ 時刻 (six thirty, nine) ・ 果物 (strawberry, apple, kiwi)
  - ・ 色 (purple, black, yellow, pink, light blue, green)
  - ・ 動物 (camel, elephant) ・ 天気 (cloudy, sunny, rainy)
  - ・ 体の調子 (great, fantastic, cold ほか)

【資料 2：外国語（英語）に対する意識調査】

### 3 研究の構想

#### (1) 研究の仮説

本研究では、目指す子供像に迫るために、以下のような仮説を立てて実践することとする。

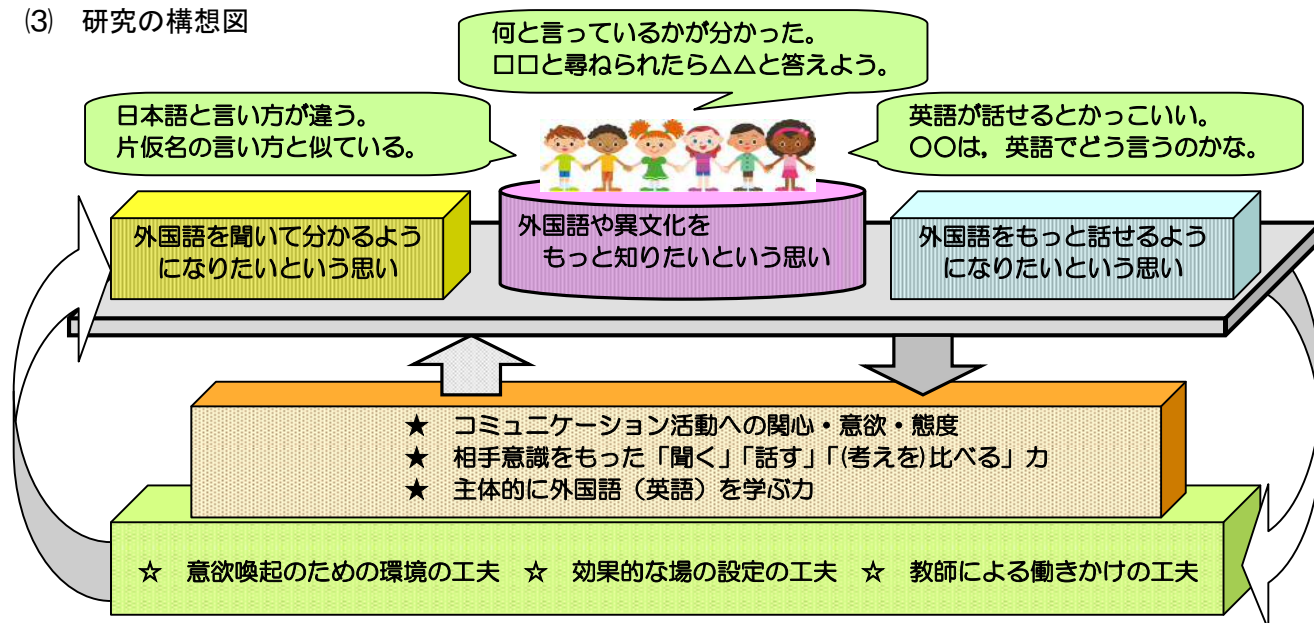
外国語（英語）にふれる活動の場の設定を工夫すれば、「聞きたい」「話したい」「知りたい」という意欲が増し、コミュニケーション力が高まるのではないだろうか。

#### (2) 研究の視点

本研究の仮説を次のような 3 つの視点で具体化し、研究に取り組むこととした。

- 視点Ⅰ：コミュニケーション活動の意欲を喚起させる環境の工夫
- 視点Ⅱ：コミュニケーション活動における効果的な場の設定の工夫
- 視点Ⅲ：コミュニケーション活動における教師の働きかけの工夫

#### (3) 研究の構想図





## 4 研究の実際

### (1) 意欲喚起のための環境の工夫

#### ア 体調や気分を表す絵の掲示

朝の健康観察は、昨年度に引き続き英語でやりとりをするようにしている。昨年度は「How are you today ?」に対し、「I'm okay/good/great」といった簡単な反応が主だった。ところが、今年度、【資料3】のような体調や気分を表す絵を掲示することで、詳しく答えられるようになってきた。例えば「I'm sleepy. But (I'm) okay.」や「I'm fantastic.」, 「I have a headache.」などである。さらに、掲示がない表現についても、それぞれ自分の体調を表す英語を知りたいと尋ねるようになったことは驚きである。



【資料3：体調・気分を表すカードを使った健康観察の様子】

「筋肉痛」「目がかゆい」「喉が痛い」「口内炎ができた」などの英語表現を知りたいということは、外国語に対する強い興味関心の現れと言える。また、学んだ言葉を次は使ってみようとする姿や自ら中学校の英語教諭に尋ねに行く姿も頼もしく感じられる。

また、こうした表現の広がりには、「新しく知った表現を自分も使ってみたい」、「友達が言いたくても思い出せないときに自分が教えてあげたい。」という意欲の高まりにも繋がっている。短時間での健康観察及び生活チェックの中でも、英語で繰り返しコミュニケーションを図ることで、力が身に付くことを子供自身が実感していることがうかがえる。

#### イ 英語の絵本

本学級の子供たちは、読み聞かせが大好きである。学級にも、自分たちで選んだ本を陳列しており、読み終わったらまた違う本を選んで並べている。どの本を読むかは三人で話し合ってから決め、帰りの会の前には教卓においてあることが習慣となっている。そうした読書意欲旺盛な子どもたちは、簡単な英語の絵本の読み聞かせに対しても目を輝かせている。英語の絵本も日本語のそれと同様にストーリー性がある。ページをめくる度に同じような表現が出てくるため、音声と絵の組合せで、パターンが見え、次のページでは、その前に繰り返し聞いていた言葉や表現が自然と子供たちの口から飛び出すこともある。また、「音」として捉えるために、目を閉じて聞くこともある。頭に残る「音」が、目を開けたときの絵と一致する際に、「なるほど」という表情を子供たちが見せるのも興味深い。他にも、既に国語で学んだ物語を英語で聞く活動も行っている。これまでに、「スイミー」、「ずうっと、ずうっと大すきだよ」、「お手紙」など、子供たちが大好きな外国の作者による物語の読み聞かせを行った。すると「日本語と英語では、同じ主人公の名前でも聞こえ方が違う」、「普通に自分たちが使っている日本語と言いが似ている言葉がある」など子供による気づきがあった。子供にとって馴染みのある物語だからこそ、英語で読み聞かせをすることで、改めて英語と日本語の違いを楽しむことができるのではないだろうか。



【資料4：英語の絵本と読み聞かせ活動の様子】

## ウ 異文化理解のための雰囲気づくり

最近では、日本でもクリスマスと同様に浸透しつつあるハロウィンだが、子どもたちに「ハロウィンとは何か、どんな意味があるのか」を問いかけたところ、返ってきた答えは、『Trick or Treat』と言って、お菓子をもらう日」というものであった。言葉として英語という外国語にふれることは、その言葉に関わる国の文化も知ることにつながる。また、繋がるべきだと考えている。そこで、今年度は、小学校全学年合同で、「ハロウィンタイム」として、外国語活動を行った。集会室の飾りをハロウィン風にセットし、授業をするために駆け付けた「Witch MORIMORI」は、雰囲気づくりのために、魔女の風貌を醸し出すための黒いマントを身にまとい、銀色の長い髪とかつら、とんがり帽子をかぶり、箒にまたがって登場した。学年の範囲が2年生から6年生までと幅広いため、プレゼンテーションをする形で説明をした。その中で、子どもたちが考えたり、話し合ったりできるように、クイズタイム(=MORIMORI Q タイム)を設定したり、学校行事として実施した「秋の収穫祭」とハロウィンと比較するための画像を準備したりすることで、この二つの行事の共通点にも子ども自身が気付くことができた。また、ハロウィンにちなんだ絵カードを使い、子供同士、担任と子供、または「Witch MORIMORI」と子供などと、組み合わせを変えながら、英語の表現を使ってゲームやアクティビティをすることで、コミュニケーション活動を意欲的に楽しむ姿が見られた。



【資料5：ハロウィンタイム】

## (2) 効果的な場の設定の工夫

### ア 朝の会での生活チェック

前述した子供たちの体調や気分を確認する健康観察に続くのは、毎日の生活チェック（十島村の養護教諭部会にて作成）である。健康観察と同様に、その日の子供との会話のきっかけや支援の仕方にも関わってくる。

この生活チェックは、英語でのやり取りに適している。なぜなら、「自然な英語」としてコミュニケーション活動が図れる場だからである。英語学習でよく言われるのは、子供に対する英語の質問が、普段の生活体験と重なっているか、あるいは、その問いに必要性があるかということである。この点から言えば、前夜から当日の朝にかけて子供が過ごしたことについての問いであるし、担任として、子供たちの生活リズムを知ることのできるコミュニケーション活動の場である。そのため、右の資料からも分かるように、単に「Yes/No」で答える質問だけでなく、思考→判断→表現という過程を経て答えなくてはならない質問もある。例えば、就寝や起床の時刻では、「early」という言葉がキーワードとなる。2年生にとって、「早く寝る」とは「夜9時より前」で、「早く起きる」とは「朝7時前」を指す。（保護者と担任との共通理解として時刻を設定している。）ここでは、第2学年で学習した算数の「時間

- (1) Did you eat breakfast ?  
→ Yes/No
- (1)-② What did you eat?  
→ (e.g) Egg, ham, bread, and yogurt  
→ Rice, miso-soup, tea and banana
- (2) Did you brush your teeth ?  
→ Yes/No.
- (3) Did you wash your face ?  
→ Yes/No.
- (4) Do you have a handkerchief/tissue ?  
→ Yes/No.
- (5) Did you go to bed early last night ?  
→ Yes/No.
- (5)-① What time did you go to bed ?  
→ Nine/Eight twenty.
- (6) Did you wake up early this morning ?  
→ Yes/No.
- (6)-① What time did wake up ?  
→ Six/Six fifty-five.
- (7) Did you go to the bathroom this morning?  
→ Yes.  
→ No. → Did you go yesterday?
- (7)-① Did you have good poop(stool)?  
→ Yes/No.

【資料6：朝の生活チェック項目】

と時こく」の考え方も入っており、子ども自身が、生活チェックで答えられるようにするには、それぞれ就寝及び起床時刻を確認しておく必要がある。英語でどのように言うのかを担任に尋ねたり、友達に教えてもらったりしながらコミュニケーション活動を行うことで、自然な形で反応できるようになってきた。11月以降は、朝食で何を食べたかについての簡単なやりとりも始めている。また、風邪気味の子どもから何度か尋ねられた「鼻水が出る＝I have a runny nose.」や「喉が痛い＝I have a sore throat.」といった表現も思った以上に定着してきた。なかには「口内炎」の英語を知りたいと目を輝かせて尋ねた子どももいた。「口内炎＝Canker sore」という新しい英語の言葉を知ったとき、新しい漢字を学んだときのように嬉しいと一人の子どもが話していたのが印象に残っている。子どもたちが、毎朝の健康観察で質問を英語で「聞き」、その意味を「知り（推測し）」、それに対して「考え」、自分のこととして受け止め、英語で「話す（答える）」力がついてきたことに、子ども自身が誇らしく感じていることがうかがえる。

## イ 「マジックワード」による称賛

先述の健康観察時に子ども自身が使う英語の表現は、子どものがんばりに対する称賛の言葉としても使えるものがある。例えば「good/great/fantastic」などは、慣れ親しんでいる表現であるため、他教科の学習活動や学級の係活動などの普段の学校生活においても、子供たちの意欲を引き上げる効果が非常に大きい。とりわけ2年生という発達段階では顕著である。こうした意欲喚起は、家庭学習で取り組んでいる漢字練習や日記においても、称賛の言葉として英語で書き添えるようにしている。子どもにノートを返却する際には

「good/great/wonderful」などと言葉でも伝え、その子供だけでなく、他の子供も音声にふれるように心掛けている。また、現在活用しているのは、「AWESOME カード」である。これは、授業中、課題解決の過程で気付きを発表したり、自分の考えや根拠を分かりやすく全体で説明したりする際、素晴らしいという意味をこめて提示するカードである。本学級のキャラクター「かずじろう」が描いてあり、このカードが出されるとより意欲的に活動や学習に取り組む姿が見られる。

このように、子供たちは自分のよさを発見してもらうことで、そのがんばりを周りに認めてもらったという思いに繋がる。日本語の「いいね」「すごい」「さすが」「なかなかやるね」「すばらしい」などの称賛の言葉同様、「good job」「well done」「great」「wonderful」「awesome」を「マジックワード」として受け止め、意欲の引き上げに効果的だと考える。

## ウ 英語の歌とダンスの活用

今年度の学習発表会では、小学部のテーマを「あくせきつずの一日」とし、各学年での発表後、小学部全員（子供＋教師）で、「英語ビート」エンディングテーマの歌とダンスを発表した。体を動かしながら歌を歌い、英語のリズムや音声に慣れ親しむという点では、TPR（＝Total Physical Response）の効果を実感した取組であった。

ラップ調でノリのいい曲と、見ている人を引き付けるかつこよさ、笑いを誘うおどけた要素が盛り込まれたダンスが、子供たちをより意欲的にさせたのかもしれない。また、この曲に出



【資料7：道徳の授業での「AWESOME」カード】



【資料8：エンディングテーマ歌詞】



てくる英語表現には、「How are you?」「Not bad. How about you?」などの問いかけから、「Good job」や「Great work」「Well done」などの「マジックワード」まで入っており、英語での自然なコミュニケーション活動の形になっている。こうした普段聞き慣れている英語表現が、曲やリズムによって繰り返し広げられることで、2年生にとっては、親しみやすい活動だったといえる。

## エ テレビ会議システム活用を通じた合同授業

ICT機器を活用した授業、とりわけ十島村の教育活動の特色でもあるテレビ会議システム活用での授業は、コミュニケーション活動を活性化するには効果的である。こうした合同授業は、これまでも校種や教科を問わず実践されてきた。今年度は、校内研修の一環として村内の小学校に協力をお願いし、授業の流れや板書の映り具合の確認、発問の練り直しなど綿密な打合せも事前にテレビ会議システムを活用して行った。課題であった「板書をいかに分かりやすく相手校に提示するか」については、画面を切り替えなくてもいいようにビデオカメラを定点カメラとして活用した。また、子供への活動の説明には、事前に撮影した活動場面の動画を流し、視覚的に子供が捉えやすいよう工夫した。こうしたICT機器の活用は、学びに対する子供の意欲を増す効果的な手立てだと言える。

宝島小学校との2度にわたる外国語活動の授業では、両校とも、色や果物を使ったゲームを経験していたため、その慣れ親しんだ英語を使った授業を組み立てた。ここで紹介する実践は、「色」についての授業である。導入の場面設定では、あえて映像やイラストではなく、「大雨・雷」→「雨あがりの雫」を音声のみで想像させた。聞く際には目を閉じ、目を開けたときには、教師が実際にさしていた傘をたたんで、空に虹がかかっている様子が伝わるようなスキットも示した。こうした工夫で普段の生活場面での「虹」のイメージに繋げることができた。また、偶然にも、この授業の前日は休み時間に虹を全員で見ていたこともあり、「虹の色」をイメージすることが容易だったようである。

展開部分では、示された色を探して見つけたらタッチする「タッチゲーム」を取り入れた。この活動には、①聞く→②言う→③探す→④ふれるという流れがあるため、子供が主体的に考え、汗をかくほど意欲的に活動できていた。この点から「色を表す英語の言葉を聞いたり、言ったりしながら、英語の音声や簡単な表現に慣れ親しむ」というねらいに近づけたのではないかと考える。

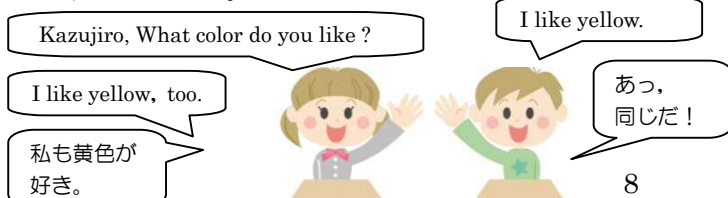
終末の活動では、虹のイラストにある7つの枠の一つに好きな色を塗り、それを英語で尋ね合う活動を取り入れた。これまでに身に付けた「What color do you like?」と「I like ○○.」を活用し、相手の好きな色を尋ねたり（他者理解）、自分の選んだ色と比べたりすることで、好きな色が自分と同じなのか違うのかを考えたり（思考）することができた。授業を通して、外国語に慣れ親しむという楽しさやコミュニケーション力の広がりや高まりを実感できた。また、他校の子供と関わったことで、相手を理解することで友達になれる、だからもっといっしょに活動したいという思いも芽生えてきた。



【資料9：合同授業①果物編】



【資料10：合同授業②色編】



相手意識をもってコミュニケーション活動をするために、必ず名前を呼んで指名したり、発表の中に入れてたりする。

【資料11：コミュニケーション活動の例】



【目標】体験的な活動を通して、英語で「色」の言い方を知り、コミュニケーション活動に意欲的に取り組んでいる。

過程	時間	主な学習活動	形態	○指導上の留意点 ※評価の観点 ◆教材・教具
導入 出会う	14:00 ～ 14:10	<p><b>【Greeting・Warm up】</b></p> <p>1 簡単な英語のあいさつをする。</p> <p>「Hello, everyone.」 「How are you ?」 「Let's start English lesson.」</p> <p>2 じゃんけんで自己紹介の順番を決める。</p> <p>Rock, scissors, paper, 123</p> <p>3 子ども同士で簡単なあいさつと自己紹介をする。</p> <p>Hello, I'm ○○. I like □□.</p> <p>4 スキットを見て、場面を想像する。</p> <p>5 本時のめあての確認をする。</p>	<p>一斉</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p>	<p>○ 口元が見えるように画面を映し、ゆっくりはっきりとした声で英語を話すようにする。</p> <p>○ できる限り英語を使って指示をする。補足説明が必要なときに日本語を使う。</p> <p>○ 「How are you, ○○ ?」と尋ねる際は、相手の名前を呼んで注目させる。</p> <p>○ 両校の教師が自己紹介をデモンストレーションし、子どもにやり方を示す。</p> <p>○ 英語を話すことで外国語活動の雰囲気をつくる。</p> <p>○ 「雨が止んだ→ 晴れてきた→ 虹が出た」の場面設定をする。(目を閉じ、音に集中させる。)</p> <p>◆ 傘、虹のイラスト、音源 (PC)</p>
えいごで「色」の言い方を知り、つかってみよう。				
展開 ① 慣れ 親しむ	14:10 ～ 14:25	<p><b>【Activity ①】</b></p> <p>6 虹の絵の中の色を見つけて答える。</p> <p>red, yellow, pink, green, purple, orange, blue</p> <p>7 虹の(七色)を英語で言う練習をする。</p> <p>8 タッチゲームをして、色の英語に慣れ親しむ。</p>	<p>各校</p> <p>一斉</p> <p>各校</p>	<p>○ 子どもから答えを引き出すようにする。話し合うこともよいとする。→自信をもたせるため。</p> <p>○ 聞いて真似する活動をリズムに合わせて、色を数回練習させる。その際、色を指し示す。</p> <p>○ 「When I say blue, you touch blue.」を聞かせ、声に出させてからその色にタッチする。</p> <p>◆ 7色分のタッチできるもの(各校で準備)</p> <p>◆ タッチゲームのやり方説明動画(画面切替)</p>
展開 ② 広げる	14:25 ～ 14:40	<p><b>【Activity ②】</b></p> <p>9 七色の中で好きな色を一つ決め尋ね合い、色を塗る。</p> <p>What color do you like ?</p> <p>I like □□.</p> <p>10 塗った虹を見せ合う。</p>	<p>一斉</p>	<p>○ 「相手の名前, What color do you like ?」という尋ね方については必要に応じて支援する。</p> <p>◆ 虹の色塗りワークシート、色鉛筆</p> <p>※ 互いの好きな色を意欲的に尋ねたり、聞いたりして、コミュニケーションを図ろうとしている。</p>
終末 ふり 返る	14:40 ～ 14:45	<p><b>【Closing】</b></p> <p>11 「I can sing a rainbow」の歌を映像とともに聴く。→ 歌えそうなら歌う。</p> <p>12 本時の振り返りをする。</p> <p>13 英語であいさつする。</p>	<p>一斉</p>	<p>○ 色を表す英語を意識させながら聴かせる。</p> <p>◆ 「I can sing a rainbow」の動画</p> <p>○ めあての達成度や授業を通しての感想、友達の発表のよさやがんばりについての気づきを発表させる。</p> <p>○ 本時の活動を振り返り、称賛の言葉をかける。</p>

【資料 12: 色についての授業の本時案】

### (3) 教師による働きかけの工夫

#### ア ALT との授業

本校に来校する ALT は、2 年目ということもあり、名前は勿論、子供一人一人の特性もつかんでいる。コミュニケーションをとる中で子供によって問いかけの仕方を変えたり、子供同士を上手に関わらせたりしている。



【資料 13】 12 月の ALT 交流・その日の日記

今年度の水泳学習は、事前をお願いして、ALTにも参加してもらった。潜ったり顔をつけたりするときのアドバイスや、うまくできたときの称賛の言葉かけを英語で伝える試みをした。この2年生での水遊びを通したコミュニケーション活動は、考えていた以上に子供にとっては効果的だった。それは、例えば「手をピンと伸ばして」といった表現は、ALTがその動きを見せながら説明するため、「聞く」ことと「見る」ことでその意味を捉えやすかったからである。



【資料 14：ALT との水泳学習】

また、12月の来校時には、クリスマス为主题にパワーポイントを活用して、クリスマスならではの食事やクリスマスツリーの購入の仕方、家の飾り付け、年越しの過ごし方、プレゼントについてなど、子供たちにとっては魅力的な話だった。また、「日本のお正月と比べてみよう」というALTからの問い掛けに、改めて日本の文化に目を向けることができた。さらに、昼休みはドッジビーをする中でコミュニケーション活動が繰り広げられ、掃除時には、掃除用具を英語で何というのかを尋ねたり、一緒に窓磨きをしながら簡単な英語でのやり取りをしたりする姿も見られた。

#### イ ゲストティーチャーとの交流活動

ALT以外でも、オーストラリアとドイツから観光で来島した方々にゲストティーチャーになっていただいた。オーストラリアについての異文化理解の授業では、「食」ということをテーマにし、実際に「ベジマイト」を試食する中で、味覚についての英語表現にもふれることができた。また、オーストラリアではピーマンを「green pepper」ではなく「capsicum」ということにも驚いていた。体育の授業では、体ほぐしの活動で、動作に関わる英語表現を知ることができた。2年生の子供にとって、体を動かしながら、英語の表現を知ることがいかに効果的であるかを改めて実感した活動となった。



【資料 15  
オーストラリアからのGTとの交流】

また、ドイツ語の音声にふれ、日本語とも英語とも違う「音」に気付く貴重な機会もあった。真似をして言おうとしても、息の出し方が日本語や英語と異なるため、難しさも感じたようである。さらに、ドイツでのジャンケンをする中で、「stein=rock」「schere=scissors」「papier=paper」というように、英語に似ている「音」があるという気付きもあった。「聞く」ことに集中し、外国語の音声に慣れようとするからこそその気付きである。英語でのカードゲームでは、数字と色を言いながら活動を楽しむことで、より意欲的に英語を使おうとする姿が見られた。いずれのゲストティーチャーも、ただ説明をするのではなく、必ず子供に問い掛け、予想させて考えを引き出す「技」を効果的に活用して、コミュニケーション活動を活性化していた。



【資料 16  
ドイツからのGTとの交流】

#### ウ 担任による異文化にふれる手立て

お楽しみ会の計画を立てたり、その準備をしたりする時期に、外国からの手紙やカードが届くような手立てを講じた。子供たちは、国語で学習した「しかけカードの作り方」を生かしてカード作りをし、日本語だがサンタへの手紙を綴り、投函した。ALT経験のある友人に、サンタクロースとしてクリスマスカードを準備してもらい、学期内に届くようお願いした。果たして、子供宛へのカードが、カナダ、タイ、ウルグアイ、ニュージーランド、



【資料 17：サンタからのカード】





【資料 18：カードの返事が届いた日の日記】

香港から届き、大喜びしたのは言うまでもない。貼られた切手からどこの国か想像し、ヒントをもらいながら世界地図で探して国名を当てる活動も盛り上がった。また、子供たちは、カードに書かれている文字にも興味を示した。タイ語を見て「字じゃないみたいだ。何かのマークだ。」とつぶやき、フランス語を見て「字の上にコンマみたいな点がついている。」という気付きもあった。こうした外国語に対する興味関心は、教師の働きかけ次第で引き出せることを改めて実感できた。

## 5 研究のまとめ

### (1) 研究の成果

- 極小規模校として、他校とテレビ会議活用による合同授業を実践することで、相手を意識したコミュニケーション活動を展開することができた。
- 研究授業では、雨音の音源を使ったスキットで、子供が「聞く」ことに集中できていた。また、子供の身近にある出来事を想起させることで、自然な英語表現にふれることができた。
- 単発的な外国語活動ではなく、普段から英語の音声に慣れ親しむことで、何気ない自然な反応ができたり、もっと知りたいという興味がわいてきたりするため、健康観察などの日常的なやり取りの大切さを実感した。
- 低学年の子供は、リズム、歌、動きを外国語の音声と組み合わせることで、楽しみながら主体的に活動に参加していた。
- 意欲喚起のためには、知っている情報にプラスして、初めて知る情報や気付くことで面白さを感じる情報や活動内容を授業に盛り込むことがコミュニケーション力の広がりにも効果的であった。

### (2) 今後の課題

- 極小規模校における複式学級での外国語活動の在り方を学校全体で考えていく必要がある。
- 「話す」「聞く」活動の充実を図るために、外国語活動に限らず、教科や領域を超えた実践として、他校と繋いだテレビ会議システムを活用した授業をより多く実践していきたい。
- 中学年及び高学年の移行期間及び完全実施に向けての時数を考慮し、低学年でどの程度の時数及び内容が必要なのかを系統性を考えた上で検討する必要がある。
- ALT やゲストティーチャーの活用、担任以外の先生方、他学年（中学生を含む）など、多くの人と関われるような場をより多く設定することで、相手意識をもったコミュニケーション活動が展開できるような授業づくりを心掛けたい。
- 外国語活動の研修機会が少ないため、テレビ会議システムなどを活用した研修の機会をさがし、今後の校内での研修に生かしたい。

#### 【参考文献・資料】

「小学校英語の現状・成果・課題について」  
「新しい小学校外国語教育（新指導要領についての研修資料）」  
「英語教員海外研修派遣 UNSW Professional Development Program 研修資料」  
「小学校英語を取り巻く議論の動向」  
「小学校英語教育に関する調査研究」  
「英語情報 春号・夏号・秋号」

文部科学省  
佐伯市立明治小学校研修資料  
日本英語検定協会・UNSW Institute of Language  
玉川大学リベラルアーツ学部研究紀要  
国立教育政策研究所  
日本英語検定協会